平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月8日

上場会社名　株式会社 デジタルアドベンチャー　　上場取引所　大
コード番号　4772　URL　http://www.digiadv.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 矢島　重比古
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長　(氏名) 大山　智子　TEL 03-6809-6118

四半期報告書提出予定日　平成25年5月10日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	1,532	33.0	4	△93.6	△21	―	99	39.8
24年12月期第1四半期	1,152	―	62	―	82	―	71	―

(注)包括利益　25年12月期第1四半期　49百万円　(△30.8%)　24年12月期第1四半期　71百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第1四半期	1.83	―
24年12月期第1四半期	1.31	―

当社は、平成23年12月期より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。これに伴い、平成24年12月期第1四半期(1月～3月)と平成23年12月期第1四半期(4月～6月)とは対応する期間が異なるため、平成24年12月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期第1四半期	3,209	2,378	70.9	41.87
24年12月期	3,414	2,347	65.2	40.97

(参考) 自己資本　25年12月期第1四半期　2,274百万円　24年12月期　2,224百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
25年12月期	―				
25年12月期(予想)		0.00	―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年 1月 1日～平成25年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,440	14.3	△60	―	△50	―	0	―	0.00
通期	4,850	10.0	100	―	100	―	150	―	2.76

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期1Q	54,392,638 株	24年12月期	54,392,638 株
② 期末自己株式数	25年12月期1Q	78,876 株	24年12月期	78,876 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期1Q	54,313,762 株	24年12月期1Q	54,314,520 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信[添付資料]3ページ1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
４．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 5
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 7
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 7
（５）セグメント情報等 …… 7
（６）重要な後発事象 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等による復興需要に加え、新政権による経済対策や金融政策を背景に急激な円安となり、株価上昇がみられたものの、欧米諸国の財政不安や景気の低迷、新興国経済の減速など、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような経営環境の中、当社グループはグループ事業再編により、当社はアーティストマネジメントを中心としたエンターテインメントに事業集中し、当第１四半期には大型イベントがあったこと、また前連結会計年度に購入した大型ドラマ版権の事業化等により、売上高は大きく伸ばしております。

一方、利益面については、版権の償却負担を主な要因として原価が増加しており、売上総利益、営業利益は伸び悩みました。また急激な円安によりドラマ版権の支払時において為替差損を計上し、前連結会計年度に購入しました転換社債型新株予約権付社債の期限前償還に伴い、特別利益として投資有価証券償還益を計上しております。

この結果、当第１四半期連結累計期間の売上高は15億32百万円（前年同期比33.0％増）、営業利益４百万円（前年同期比93.6％減）、経常損失21百万円（前年同期は、経常利益82百万円）、四半期純利益99百万円（前年同期比39.8％増）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（デジタルコンテンツ配信事業）

デジタルコンテンツ配信事業は子会社に事業が集約され、各子会社は当該事業にリソースを集中しております。スマートフォン市場の急激な拡大に対応し、既存サイトのスマートフォンでの配信を順次開始しておりますが、既存サイトの売上減少は下げ止まりつつあるものの引き続き厳しい状況は続いております。

この結果、売上高は１億56百万円（前年同期比20.5％減）、セグメント利益は９百万円（前年同期比66.2％減）となっております。

（物販事業）

所属アーティストの関連グッズ、全国ツアーイベントグッズおよびアニメ冬のソナタメモリアルアルバムが発売される等好調でしたが、前連結会計年度において連結子会社であった株式会社ザ・ネット・プランが持分法適用関連会社になったことに伴い、セグメントから除外されたことにより、売上高は１億41百万円（前年同期比41.3％減）、セグメント利益は25百万円（前年同期比97.1％増）となっております。

（ライツ＆メディアコミュニケーション事業）

韓国アーティストキム・ヒョンジュンのソロセカンド全国ツアー「Kim Hyun Joong Japan Tour2013 “UNLIMITED”」が、１月の神戸ワールド記念ホール、さいたまスーパーアリーナを皮切りに、３月の広島最終公演まで全国11都市で15公演開催し、自社テレビ局「ＤＡＴＶ」では、話題の大型ドラマ「蒼のピアニスト」「ポゴシッタ（原題）」の日本初放送を開始しております。また、前連結会計年度に購入した大型ドラマ版権のＤＶＤ等での事業化が一部実現しております。

利益面では、イベントコストの徹底管理を図るなどコスト削減に努めましたが、版権の償却負担により原価が増加しており、この結果、売上高は12億34百万円（前年同期比110.0％増）、セグメント損失は31百万円（前年同期は、セグメント利益16百万円）となっております。

（その他事業）

前連結会計年度において連結子会社であった株式会社ザ・ネット・プランが持分法適用関連会社になったことに伴い、セグメントから除外されたことにより、売上高は０百万円（前年同期比99.6％減）、セグメント損失は０百万円（前年同期は、セグメント利益３百万円）となっております。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

当第１四半期連結会計期間末における資産は、32億９百万円となり、前連結会計年度末に比べ２億４百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金が１億62百万円減少、関係会社短期貸付金が５億円増加および投資その他の資産のその他が５億84百万円減少したことによるものであります。

（負債）

当第１四半期連結会計期間末における負債は、８億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ２億35百万円減少しました。この主な要因は、買掛金が２億51百万円増加、流動負債のその他が３億35百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産は23億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が99百万円増加、およびその他有価証券評価差額金が50百万円減少したことによるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

個別業績予想においては、平成25年２月13日の公表時点では、前連結会計年度に購入した大型ドラマ版権のＤＶＤ等の事業化に伴う収益の計上に関し、利益のみを収益として計上する方針で予想を作成しておりましたが、監査法人との協議の結果、売上高および売上原価を計上することが適正であるとの判断に至りました。また、公表時点では想定していなかった連結子会社２社を売却したことに伴い、第２四半期連結会計期間において子会社株式売却損の計上が見込まれることから、第２四半期累計期間および通期の業績予想を修正いたしました。

連結業績予想においても、個別業績予想における要因等により、第２四半期累計期間および通期の業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日（平成25年５月８日）に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において８億42百万円の営業キャッシュ・フローのマイナスが発生しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。これは、大型ドラマコンテンツ版権の取得による前渡金の増加が主な要因であります。

当社は、当該状況を解消すべく版権のＤＶＤ等事業化を進めており、当第１四半期に一部実現しております。当連結会計年度内に投資回収する予定であり、またＤＡＴＶの加入者増加による収益改善を見込んでいることなどから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、文中における将来に関する事項は当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年12月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	795,051	632,437
受取手形及び売掛金	386,258	499,280
コンテンツ	16,787	16,758
商品	25,124	2,619
仕掛コンテンツ	25,251	27,482
関係会社短期貸付金	－	500,000
前渡金	1,236,354	1,204,364
その他	30,135	20,123
貸倒引当金	△623	△679
流動資産合計	2,514,339	2,902,386
固定資産		
有形固定資産	20,768	19,408
無形固定資産		
のれん	32,631	27,019
その他	56,193	52,825
無形固定資産合計	88,825	79,845
投資その他の資産		
その他	902,599	318,387
貸倒引当金	△112,266	△110,666
投資その他の資産合計	790,333	207,720
固定資産合計	899,926	306,975
資産合計	3,414,265	3,209,361
負債の部		
流動負債		
買掛金	345,886	597,228
短期借入金	100,000	－
その他の引当金	6,426	6,411
その他	581,868	225,905
流動負債合計	1,034,181	829,544
固定負債	32,728	1,539
負債合計	1,066,910	831,083
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	△1,792,464	△1,692,809
自己株式	△32,387	△32,387
株主資本合計	2,174,640	2,274,295
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,335	－
その他の包括利益累計額合計	50,335	－
新株予約権	122,379	103,982
純資産合計	2,347,355	2,378,277
負債純資産合計	3,414,265	3,209,361

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年１月１日 至　平成25年３月31日）
売上高	1,152,905	1,532,961
売上原価	863,341	1,363,351
売上総利益	289,564	169,609
販売費及び一般管理費	226,768	165,602
営業利益	62,796	4,006
営業外収益		
受取利息	749	4,082
為替差益	20,342	－
貸倒引当金戻入額	－	1,600
その他	137	151
営業外収益合計	21,230	5,834
営業外費用		
為替差損	－	25,397
持分法による投資損失	1,015	5,282
その他	43	442
営業外費用合計	1,059	31,122
経常利益又は経常損失（△）	82,966	△21,281
特別利益		
投資有価証券償還益	－	103,941
その他	933	22,623
特別利益合計	933	126,564
特別損失		
固定資産除却損	85	348
特別退職金	3,294	－
投資有価証券売却損	－	294
減損損失	3,378	－
特別損失合計	6,758	643
税金等調整前四半期純利益	77,141	104,639
法人税、住民税及び事業税	7,051	4,984
法人税等調整額	△1,182	－
法人税等合計	5,868	4,984
少数株主損益調整前四半期純利益	71,272	99,655
四半期純利益	71,272	99,655

（四半期連結包括利益計算書）
（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年１月１日 至　平成24年３月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年１月１日 至　平成25年３月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	71,272	99,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	－	△50,335
その他の包括利益合計	－	△50,335
四半期包括利益	71,272	49,319
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	71,272	49,319

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
前第１四半期連結累計期間（自　平成24年１月１日　至　平成24年３月31日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）	合計
	デジタルコンテンツ配信	物販	ライツ＆メディアコミュニケーション	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	196,237	241,366	587,932	1,025,537	127,368	1,152,905
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	0	0
計	196,237	241,366	587,932	1,025,537	127,368	1,152,906
セグメント利益	29,169	13,150	16,826	59,146	3,250	62,397

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	59,146
「その他」の区分の利益	3,250
セグメント間取引消去	398
四半期連結損益計算書の営業利益	62,796

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第１四半期連結累計期間（自　平成25年１月１日　至　平成25年３月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）	合計
	デジタルコンテンツ配信	物販	ライツ＆メディアコミュニケーション	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	156,100	141,802	1,234,549	1,532,453	508	1,532,961
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	0	0
計	156,100	141,802	1,234,549	1,532,453	508	1,532,961
セグメント利益又は損失（△）	9,870	25,922	△31,730	4,063	△143	3,919

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	4,063
「その他」の区分の損失（△）	△143
セグメント間取引消去	87
四半期連結損益計算書の営業利益	4,006

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

１．子会社株式の譲渡

当社は、平成25年４月17日付で、連結子会社の株式会社アイロゴスおよび株式会社キントーンジャパンの２社の株式譲渡に関する基本合意書を締結し、平成25年５月８日付で株式売買契約書を締結の上、平成25年５月９日付で株式を譲渡いたしました。

(1)　譲渡理由

当社グループは、平成23年９月にグループ事業再編を実施し、当社はアーティストマネージメントを中心としたエンターテインメントに事業集中し、子会社にデジタルコンテンツ配信事業を集約して、各社が得意とする分野において事業展開を図ってまいりました。しかしながら、デジタルコンテンツ配信事業においては、スマートフォン市場の急激な拡大に対応するため、既存サイトのスマートフォンでの配信を順次開始しておりますが、売上減少は下げ止まりつつあるものの引き続き厳しい状況が続いております。また、当社は平成25年12月期において、基幹事業である自社テレビ局「ＤＡＴＶ」の黒字化を図ることを最大の経営課題として捉えており、さらに新規事業の本格稼働を目指し、エンターテインメント事業へ経営資源を集中投下しております。

このような経営環境の中、デジタルコンテンツ配信事業においては、変化する事業環境に子会社が柔軟に対応できる経営体制が必要であること等検討した結果、株式会社K's FACTORYに株式会社アイロゴスおよび株式会社キントーンジャパンの全株式を譲渡することを決定いたしました。

(2)　譲渡先　　：　株式会社K's Factory

(3)　譲渡の時期　：　平成25年５月９日

(4)　譲渡する連結子会社の名称、事業内容および当社との取引状況

① 株式会社アイロゴス

事業内容　　：　デジタルコンテンツ配信事業

当社との取引状況　　：　コンテンツ使用取引関係

譲渡する株式の数、売却価額、売却損益および売却後の持分比率

譲渡する株式の数　：　6,000株

売却価額　　：　40百万円

売却損　　：　27百万円

売却後の持分比率　：　0%

② 株式会社キントーンジャパン

事業内容　　：　デジタルコンテンツ配信事業

当社との取引状況　　：　業務委託関係

譲渡する株式の数、売却価額、売却損益および売却後の持分比率

譲渡する株式の数　：　1,200株

売却価額　　：　30百万円

売却損　　：　25百万円

売却後の持分比率　：　0%